

2017
1213
No.
33



すすしん

新発想で
つくろう。
豊かな
人口減少社会

住民自ら考えるまちづくり！

行政任せのまちづくりでいいのか

今年6月の静岡県知事選挙で現職の川勝知事が三選を果たしたことを受けて、県では来年度から4カ年の次期総合計画を策定中です。「総合計画」とは県における様々な政策分野での主要な施策や取り組みをまとめたものであり、川勝県政全体の方向性を示すものです。逆に言えば、教育、産業、防災、社会福祉、交通等の各分野における具体的な計画や施策は、この総合計画に基づいて作られます。

それだけ重要な総合計画ですから、私たち県議会議員も川勝知事や担当者と議論を重ねてきました。11月8日には、会派「ふじのくに県民クラブ」として、総合計画案に対する提言書を川勝知事に提出しましたが、私は会派の政策調査会長としてその取りまとめを担当しました。



川勝知事に会派提言書を提出（平成29年11月8日）

ただ、特に政策責任者として実感しているのは、**総合計画を始めとする自治体の様々な計画やまちづくり、そして県政そのものが、余りにも行政に任せ過ぎていないか**ということです。行政職員はその道の専門家であり、日々のサービスや事業の実施を任せるのは当然としても、行政は正に私たちの日々の生活に直結するものですから、その計画づくりについては住民自身も積極的に関わるべきではないでしょうか。

とりわけ、**人口減少・高齢化が少なくとも今後数**

十年間は進行することがほぼ間違いないのですから、税収が減少していく行政が提供できるサービスやインフラは徐々に縮小せざるを得ません。つまり、今後、行政が提供すべきサービスやインフラを絞り、提供できないものは、民間活力あるいは住民自らでまかなうという選択が必要だということです。そうした選択をどうすべきか具体的に書き込むのが総合計画等の行政の計画ですから、その策定に住民がもっと積極的に参加しなければ、人口減少・超高齢社会への備えとして実効性・実現性のある計画の策定は今後ますます難しくなるでしょう。

しかし、実際には住民参加による計画づくりは殆ど出来ていません。例えば、次期総合計画案について、県では今年の「県民だより」9月号やホームページを通じて県民の皆さんからのアイディアを1カ月募集しました。しかし集まったのは僅か6件。概ね完成した次期総合計画案に対する県民の皆さんからの意見募集（パブリックコメント）がこの12月5日から行なわれていますが、通例では集まったとしても数十件程度です。また総合計画案を公式に議論する場として、26名の有識者や各種団体の代表者等から構成される「総合計画審議会」があります。しかし来年3月に次期総合計画が完成するまでに開催されるのは2時間の会議が計3回だけです。

当然のことながら、地域の代表として選ばれている私たち県議会議員は、住民の皆さんの声や意見を県政に反映させようと、本会議や委員会そして日頃のやりとりの場で議論したり提言したりしています。しかし、議論すべきものは総合計画だけではありません。総合計画を受けて作られる政策分野ごとの個別の計画等だけでも百近くあり、県議会議員による議論やチェックにも限界があります。やはり、様々な場面で仕事、研究、社会活動等をしている、もしくはされてきた住民の皆さんにも、計画の策定段階から議論に加わって頂くことが益々重要になってきていると考えます。

40年以上前から住民主体のまちづくりが進む米国ポートランド

米国のアウトドア製品メーカー「コロンビア」の発祥地であるポートランドというオレゴン州の都市をご存知でしょうか？人口でいえば静岡市と同規模（約64万人）の市です。実は今年の5月と8月に視察してきました。何故なら、40年以上前から住民主体のまちづくりが行なわれ、静岡県や市町が見習うべき取り組みが沢山ある街だからです。

その一例が、「ネイバーフッド・アソシエーション（NA）」と呼ばれる住民組織です。市内に95あるNAは市が公認する地域組織であり、市はNA担当の局を置くだけでなく、年間3千～5千ドルの活動予算を各NAに交付しています。非公式な存在である日本の町内会と住民組織という点では似ていますが、その活動内容も大きく違います。例えば、地域の開発等の課題について、日本では行政が町内会長等の役員の方々から直接意見を聞くというのが通例ではないでしょうか。しかしポートランドのNAは、自ら議論や調査そして関係者との対話を重ね、時には住民投票を行うなどして、主体的に開発計画を策定したり解決策を見出したりするのです。



ケントン NA の役員からヒアリング。中央右の男性が会長（平成29年8月27日）

8月に視察したケントン NA は、ポートランドが直面している課題の一つであるホームレス問題への対応として、ホームレスの女性が自立するまで一時的に居住出来る住宅群を建設する計画の実施に際し、市からの要請を受け、地元の企業家や反対派を含む地域住民等との対話を進めました。最終的には計画案を修正させ、住民投票を経て「ケントン女性村」の建設を実現させました。こうした大変かつ地道な活動を行なった NA の役員は、全員選挙で選ばれた無報酬のボランティア（任期は最長3年）で

す。しかもケントン NA の会長は31歳のコンピュータ技術者です。日本の町内会とは大きな違いです。

このNAのようにポートランドの住民が積極的・主体的にまちづくりに参加するようになったのは1970年代に入ってからです。その象徴が「1972ダウNTOWN計画」です。現在のポートランドは、環境に優しい、自転車や徒歩で周りたくなるお洒落な街として大変注目されています。そうしたまちづくりの基礎となった計画です。

当時のポートランドでは、自動車中心のまちづくりが進んだことにより、中心街から小売店や住民が減り、慢性的な交通渋滞による大気汚染や騒音が深刻化していました。そんなポートランドを変えようと地元の企業や建築家等が立ち上がり、市や州に対し計画策定を働きかけました。様々な立場の市民からなる諮問委員会も設置され、行政や民間の専門家と共に策定にあたりました。また、市内各所でオープンミーティングが毎週開かれ、数多くの一般市民も議論に参加しました。そこで市民から出された提案は、15カ月の策定作業を経て1972年2月に完成した計画の中に数多く採り入れられたそうです。

この計画で示された基本理念は、今のポートランドにも引き継がれています。詳細は次号でお話します。2018年も引き続きよろしくお願い致します！



ポートランドを象徴する交通機関 MAX（路面電車）の路線延伸に際し地元住民や行政との調整を担った市民活動家のジャンガー氏（写真右）らと。基礎自治体（市）が存在しない「非法人化地域」に住む彼らは、地域の行政サービス向上の為、新たに市を立ち上げようと活動中。正に住民主体のまちづくりの好例（平成29年8月30日）

お読み下さりありがとうございます。『すずしん』に関するお問い合わせは…

静岡県議会議員すずきさとる事務所 〒422-8041 静岡市駿河区中田1-11-19
電話 054-281-3715 FAX 054-281-3716 E-mail: mail@suzukisatoru.net
開所時間：月曜日～金曜日（休祝日を除く）9時～15時 ※南幹線沿いにあります！



地元根差した事務所を目指しています。県政や県議会について話を聞きたい、どこに相談していいのわからないという方、遠慮なくご連絡下さい！ すずきさとる

すずきさとるの
すずしんラジオ

毎月第2・4金曜日
午後6時30分より
FM・Hi!で放送中

76.9
FM・Hi!